

令和7年度 授業改善推進プラン3年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	2 学期	3 学期
国語	①自分の思いや考えが明確になるように文章で表現する力に課題がある。 ②大切な内容を落とさずに聞くことに課題がある。	①文型を示し、書き方が理解しやすくなる支援を行う。文章を書く際は、授業内で学習した「書き方」を振り返り、定着させていく。 ②日常の中で、話をするときにポイントを板書や掲示で可視化し、話の中心が何かを常に意識させる指導を行う。		
社会	①資料から必要な情報を読み取る力を伸ばしていく必要がある。 ②授業で学んだことと、自分の生活を重ね合わせて考えるようことを積み重ねていく必要がある。	①見学や体験的な学習を積極的に行い、実体験から社会生活を考えさせる。地図帳、資料集等と ICT の資料を併用して、多方面から必要な情報を調べさせる。 ②授業と区別して考えるのではなく、学習内容が自分の生活に繋がっていることを実感できるよう、子供たちに声をかけていく。		
算数	①問題の意味を正しく捉えて解決することが苦手な児童への支援が必要。 ②前学年までの学習が定着していない児童への支援が必要。	①テープ図や言葉の式を利用して、問題の意味を正しく捉えて解決するように促す。問題解決の過程や結果を、具体物、図、式を用いて伝える機会を設定する。 ②九九や単位変換などの問題について、アプリ等を活用し、朝学習や宿題等で積極的に取り入れる。		
理科	①考察を書く際に、問題と照らし合わせながら考えを書くことが必要である。 ②結果の記録と考察の違いがあいまいになっている。	①観察・実験を通して問題の答えを見つけてという意識づけを、観察・実験前や考察を書くときに行う。 ②結果の記録と考察の書き方をまとめたカードを作成し、児童のノートに貼らせる。		
音楽	①基礎的な技能の力は段階的につけているが、周りの音と自分の音を聴き、表現の工夫に繋がるとよい。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取ることに慣れる必要がある。	①技能の向上を個別にゴールを設定して取り組ませることで無理なく参加できるようにする。聴いて真似する簡単な常時活動を授業に取り入れて「聴く」力を育てる。 ②音楽の成り立ちを説明するための音楽的な言葉の例を示し選ばせるなどして言語化する活動に慣れるような手立てをする。		
図画工作	①制作に意欲的に取り組もうとするが、十分理解する前に動き始める児童が多くいるので、安全面を含め、改善策が必要である。 ②発想を豊かに形にしようとするので、児童が広げられるような題材の設定が必要である。	①用具の使い方や活動を安全に取り組めるように丁寧に指導し、様々な素材を経験させる。 ②自然や素材などをよく感じながら制作し、自分の実感を伴う経験を広げる。		
体育	①運動遊びと運動の接続が必要な学年であるが、2つの関係性を理解できていない児童や遊びの動きを生かしていない児童が多い。 ②自分の現状や課題を客観的に捉えることに課題がある児童が多い。	①系統表を示したり、導入段階で2年生までの運動遊びを振り返らせたりすることによって、運動遊びと運動の接続を図っていく。 ②タブレット端末を活用し、お手本動画の視聴、カメラ機能を使って、自分の運動の様子を撮影し、分析させる等の手立てを示す。		
外国語活動	①外国語を聞くことに慣れたり、楽しんで話したりする経験をさらに積み重ねる必要がある。	①ALT や友達とのコミュニケーションを楽しんで取り組めるように、ゲーム性のある活動を取り入れる。		
道徳	①道徳的価値を自分自身の経験場面と結び付けることができない児童への支援が必要である。	①様々な考えを共有できるように、学習支援ソフトを利用する。また、全体やグループ、ペアでの話し合い活動をする時間も設定し、多様な考えに触れられるようにする。		
総合	①自分に合った課題を設定することが苦手な児童が多い。	①自分に合った課題を見付けるために、友達とのかかわりや、体験活動を積極的に取り入れる。		
ICT 端末の活用	①ローマ字入力に技能に差がある。 ②算数など習熟を図る際、児童が個別に問題を選び学習を進められるよう、教員が支援を行えるようになる。 ③「スクールタクト」等を使って児童間で意見を知る経験が少ない。	①タイピング練習ソフト等を活用して、ローマ字入力に慣れていく。 ②算数の練習問題などにおいてデジタル教科書や学習アプリを用いられるよう、教材研究を行い、児童に提示できるようにする。 ③どの授業でもスクールタクト等を積極的に活用し、意見交流を図るための一つのツールとしていく。		